

生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査
報告書

平成 2 2 年 3 月

小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会

小田原市 箱根町 真鶴町 湯河原町

【目次】

調査の概要

1 調査の目的.....	1
2 調査方法.....	1
3 回収結果.....	1
4 報告書の見方.....	1

調査の結果 ～ . 生ごみのリサイクルについて (Q1～Q9)～

Q1.家庭で行っている生ごみの処理やリサイクルについて.....	3
Q2.生ごみの処理やリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことについて.....	4
Q3.生ごみの処理やリサイクルに効果的だと思う取り組みについて.....	5
Q4.家庭用生ごみ処理機器によるリサイクルで大切だと思うことについて.....	6
Q5.業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する考えについて.....	7
Q6.業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する協力について.....	8
Q7.生ごみの分別収集に対する協力について.....	9
Q8.生ごみの分別を行った場合に必要な収集回数について.....	10
Q9.生ごみの資源化について(自由意見).....	11

調査の結果 ～ . 剪定枝のリサイクルについて (Q10～Q14)～

Q10.剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことについて.....	13
Q11.剪定枝の処理やリサイクルに対する考えについて.....	14
Q12.剪定枝の分別収集に対する協力について.....	15
Q13.剪定枝の分別を行った場合に必要な収集回数について.....	16
Q14.剪定枝の資源化について(自由意見).....	17

調査の結果 ～ . ごみ処理広域化について (Q15、Q16)～

Q15.ごみ処理広域化に対する考えについて.....	19
Q16.ごみ処理広域化について(自由意見).....	20

調査の結果 ～ . ご自身について (Q17～Q22)～

Q17.年代について.....	22
Q18.性別について.....	22
Q19.世帯人数について.....	23
Q20.職業について.....	23
Q21.住居形態について.....	24
Q22.居住年数について.....	24

資料 ～ 属性間クロス集計(単数回答の質問のみ)～

資料 ～ 生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査票～

調査の概要

1 調査の目的

小田原市・足柄下地区における生ごみ、剪定枝のリサイクルに対する住民意識の把握をするとともに、小田原市・足柄下地区に適している生ごみ、剪定枝のリサイクルの手法を検討するうえでの参考にする。

2 調査方法

調査地域	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町全域
調査対象	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町に在住の20歳以上の男女
対象者数	3,000人 各市町の調査対象者数は、世帯数の割合から、小田原市を2,340人、箱根町を200人、真鶴町を100人、湯河原町を360人とする。
抽出方法	平成21年9月1日現在の小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の住民基本台帳からの無作為抽出法
調査方法	郵送調査方式（郵送による配布、回収）
調査期間	平成21年10月9日～平成21年11月6日
実施主体	小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会、小田原市環境部環境政策課、箱根町環境整備部環境課、真鶴町環境防災課、湯河原町環境都市部環境課

3 回収結果

郵送数	3,000
非該当数	21
回収数	1,174
無効票数	1
有効回収数	1,173
有効回収率	39.4%

調査票への回答が白紙のものを無効票とし、集計対象から除外する。

4 報告書の見方

集計結果の表やグラフ中のnは、回答者数のことである。

集計結果の表やグラフ中の比率は、全て回答者数(n)を基数とした百分率とし、小数第2位を四捨五入している。したがって、選択枝の比率を合計しても100.0%にならないことがある。

複数回答の場合は、選択枝の比率の合計が100.0%を超える。

集計結果の説明、表、グラフでは、表記の都合から、回答の選択肢を短縮して表現している場合がある。

本調査は、標本調査のため、調査結果には統計上の誤差（標本誤差）が生じることがある。単純無作為抽出法を用いた場合の標本誤差（信頼度を95%とした場合）は次の式により求められる。

$$\text{標準誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

1.96：信頼度 95%の時の信頼係数

N：母集団数（本調査では、246,999 人）

n：標本数（有効回収数。本調査では 1,173 人）

P：標本測定値

今回の質問を例にすると、「生ごみの処理やりサイクルに効果的と思う取り組みはなんですか。」(Q3)という質問に対して、49.8%（標本測定値（P））の人が「生ごみを出さない工夫や水切りを行う（焼却処理）」と回答したことから、上記公式に代入すると、±2.9%が誤差の範囲となる。

つまり、小田原市・足柄下地区において、「生ごみの処理やりサイクルに効果的と思う取り組みはなんですか。」という質問に対して、「生ごみを出さない工夫や水切りを行う（焼却処理）」と回答する人は、 $49.8 \pm 2.9\% = 46.9 \sim 52.7\%$ の範囲にあると考えられる。

本調査における誤差早見表は以下のとおりである。

表 本調査における誤差早見表（参考）

n \ P	10% または 90%	20% または 80%	30% または 70%	40% または 60%	50%
1,173	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.9%
1,000	± 1.9%	± 2.5%	± 2.8%	± 3.0%	± 3.1%
900	± 2.0%	± 2.6%	± 3.0%	± 3.2%	± 3.3%
800	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.4%	± 3.5%
700	± 2.2%	± 3.0%	± 3.4%	± 3.6%	± 3.7%
600	± 2.4%	± 3.2%	± 3.7%	± 3.9%	± 4.0%
500	± 2.6%	± 3.5%	± 4.0%	± 4.3%	± 4.4%
400	± 2.9%	± 3.9%	± 4.5%	± 4.8%	± 4.9%
300	± 3.4%	± 4.5%	± 5.2%	± 5.5%	± 5.7%
200	± 4.2%	± 5.5%	± 6.3%	± 6.8%	± 6.9%
100	± 5.9%	± 7.8%	± 9.0%	± 9.6%	± 9.8%

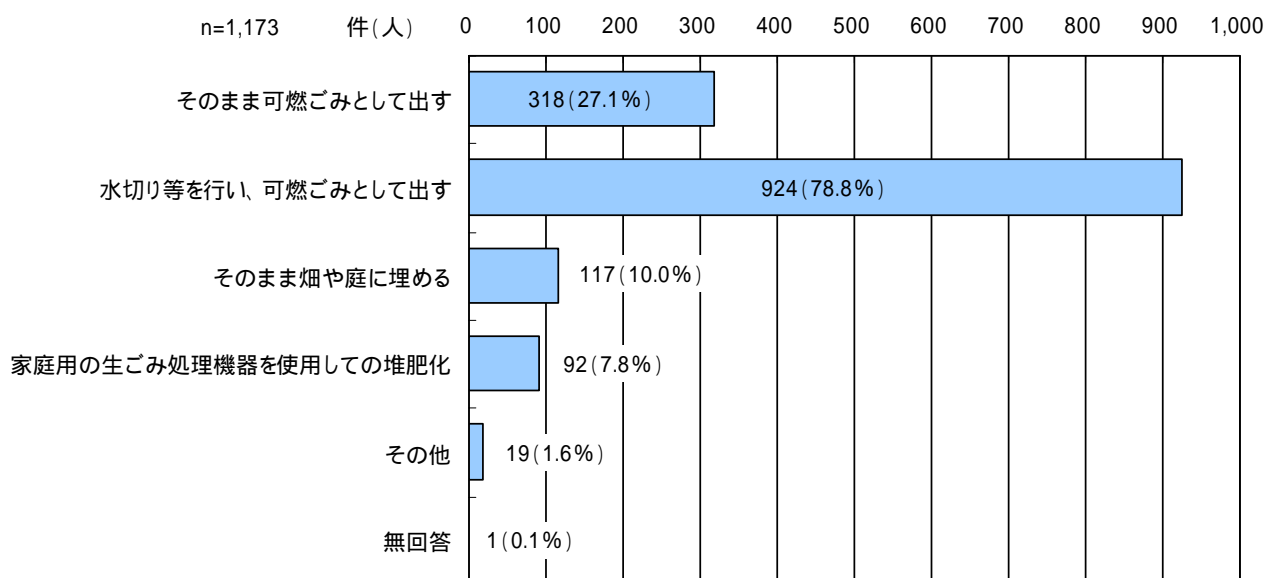
調査の結果

～ . 生ごみのリサイクルについて (Q 1 ~ Q 9) ~

Q1. 現在、ご家庭で生ごみをどのように処理、もしくはリサイクルされていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 そのまま可燃ごみとして出す
- 2 水切り等を行ってから可燃ごみとして出す
- 3 そのまま畑や庭などに埋める
- 4 家庭用の生ごみ処理機器（電動生ごみ処理機や堆肥化容器など）を使用して、生ごみから堆肥を作り、庭や家庭菜園などで利用している
- 5 その他（)

現在、家庭で行っている生ごみの処理やリサイクルについて聞いた結果、最も多かったのは、「2 水切り等を行ってから可燃ごみとして出す」(78.8%)であった。次いで、「1 そのまま可燃ごみとして出す」(27.1%)、「3 そのまま畑や庭などに埋める」(10.0%)が続いた。



グラフ1 Q1. 家庭で行っている生ごみの処理やリサイクル

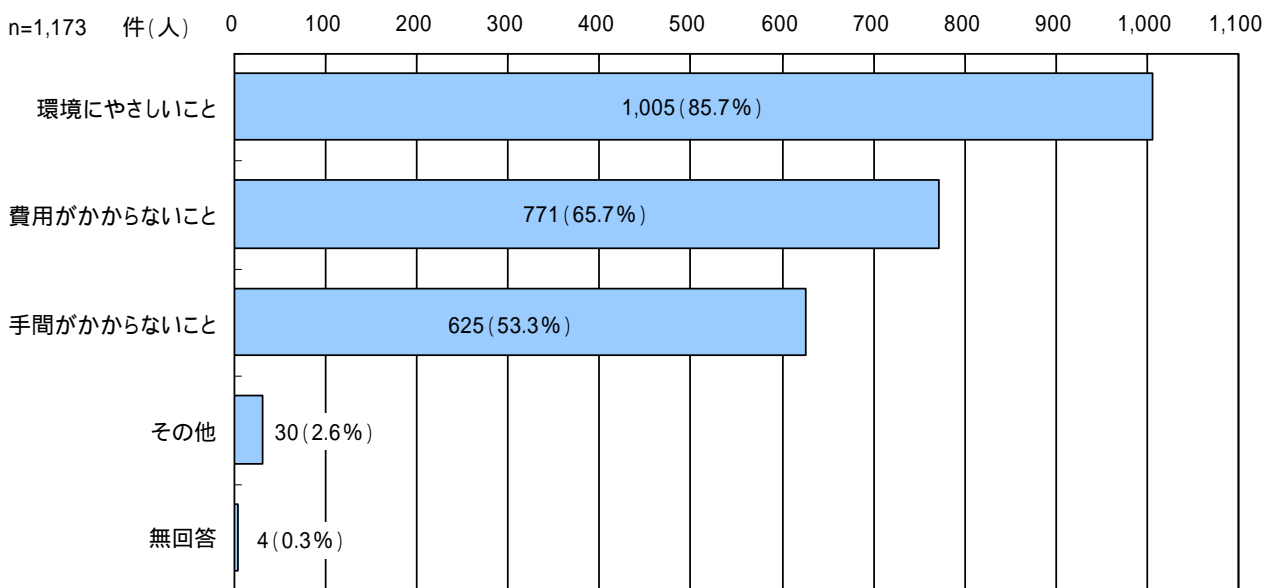
【その他の主な内容】

主な内容
生ごみは出さない
鉢植えに食べ残しを入れ、肥料として利用している
生ごみは飼っている鶏に餌として与えている
野菜の皮や芯も使うなど、生ごみを出さないようにしている
コンポストの中に入れて堆肥として使っている
ディスポーザーを利用している
畑で堆肥にし、野菜づくりなどに利用している
全ての生ごみは堆肥に出来ないので、半分だけ堆肥にして利用している

Q2 .生ごみの処理やりサイクルに取り組むにあたって、あなたが大切だと思うことは何ですか。
あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。

- 1 環境にやさしいこと
- 2 費用がかからないこと
- 3 手間がかからないこと
- 4 その他 ()

生ごみの処理やりサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことについて聞いた結果、最も多かったのは、「1 環境にやさしいこと」(85.7%)であった。次いで、「2 費用がかからないこと」(65.7%)、「3 手間がかからないこと」(53.3%)が続いた。



グラフ2 Q2. 生ごみの処理やりサイクルに取り組むにあたって大切だと思うこと

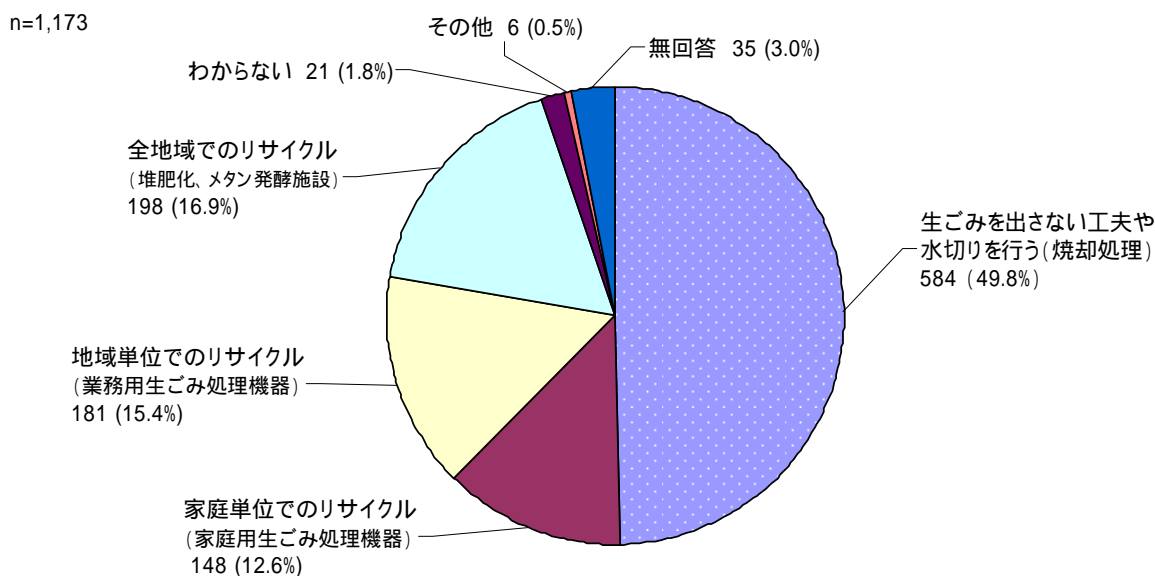
【その他の主な内容】

主な内容
住民の負担とならないこと
場所をとらないこと
資源（堆肥など）として利用できること
費用（設備費、維持管理費）を抑えること
生ごみのリサイクルについての説明会等を実施すること
リサイクルの大切さや必要性を認識すること
衛生的であること（臭わないこと）
ごみの排出量を減らす取り組み
ルールが分かりやすいこと
個人の心がけ

Q3. 生ごみの処理やリサイクルには色々な方法がありますが、生ごみの処理やリサイクルに効果的と思う取り組み(方法)は何ですか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 無駄なものを買わない、食べ残しをしないなどの生ごみを出さない工夫を行ったり、十分に水切りを行うなどしてから、これまでどおり可燃ごみとして焼却処理する
- 2 家庭用の生ごみ処理機器(電動生ごみ処理機や堆肥化容器など)を使用して、生ごみから堆肥を作り、庭や家庭菜園などで利用する
- 3 自治会や学校区など地域で協力し、業務用(大型)の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作り、地域の家庭や農家に配布したり、花壇等で利用する
- 4 全地域で生ごみを分別し、生ごみから堆肥を作る施設(堆肥化施設)や、生ごみからメタンガスを生成して発電などをする施設(メタン発酵施設)でリサイクルする
- 5 わからない
- 6 その他()

生ごみの処理やリサイクルに効果的と思う取り組みについて聞いた結果、最も多かったのは、「1 生ごみを出さない工夫や水切りを行う(焼却処理)」(49.8%)であった。次いで、「4 全地域でのリサイクル(堆肥化、メタン発酵施設)」(16.9%)、「3 地域単位でのリサイクル(業務用生ごみ処理機)」(15.4%)が続いた。



グラフ3 Q3. 生ごみの処理やリサイクルに効果的だと思う取り組み

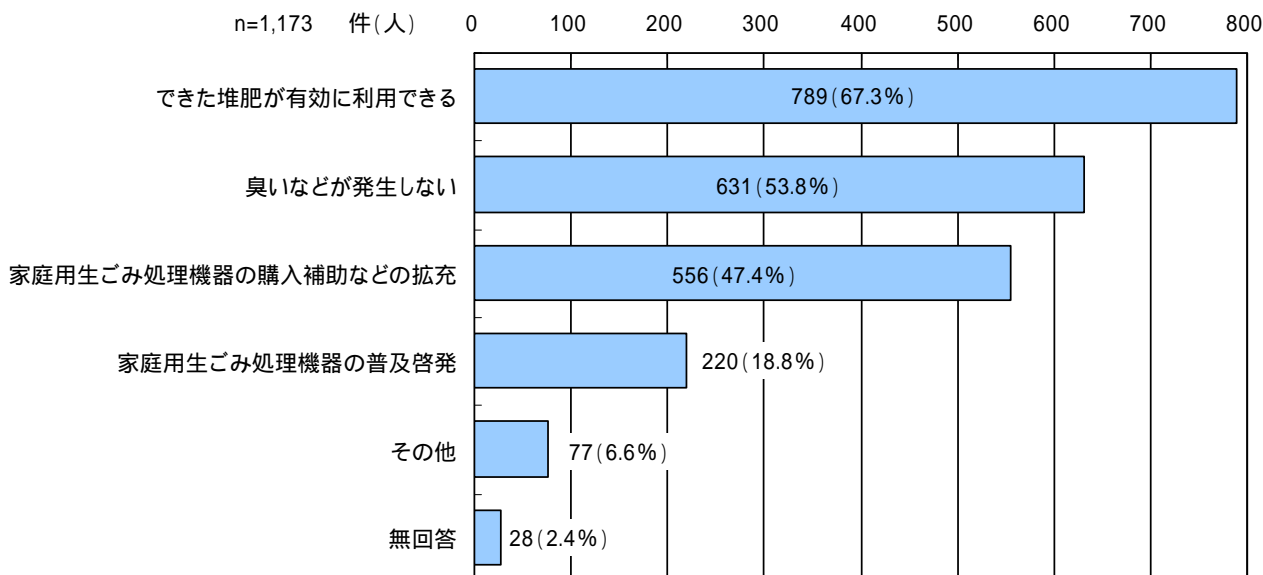
【その他の主な内容】

主な内容
地域単位での堆肥化を行う良い方法を考える必要がある
庭などに埋める
堆肥の必要があるのかを考える必要がある
環境負荷、建設費用、ランニングコストの低い方法がよい

Q4. 家庭用の生ごみ処理機器（電動生ごみ処理機や堆肥化容器など）を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルについて大切だと思うことはなんですか。あなたの考えに近いものをいくつかもお選びください。

- 1 できた堆肥が有効に利用できること
- 2 臭いなどが発生しないこと
- 3 家庭用の生ごみ処理機器の購入に対する補助制度などが拡充されること
- 4 家庭用生ごみ処理機器の使用法の説明会を行うなど、普及啓発を行うこと
- 5 その他（ ）

家庭用生ごみ処理機器を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルで大切だと思うことについて聞いた結果、最も多かったのは、「1 できた堆肥が有効に利用できること」(67.3%)であった。次いで、「2 臭いなどが発生しないこと」(53.8%)、「3 生ごみ処理機器の購入補助の拡充」(47.4%)が続いた。



グラフ4 Q4. 家庭用生ごみ処理機器によるリサイクルで大切だと思うこと

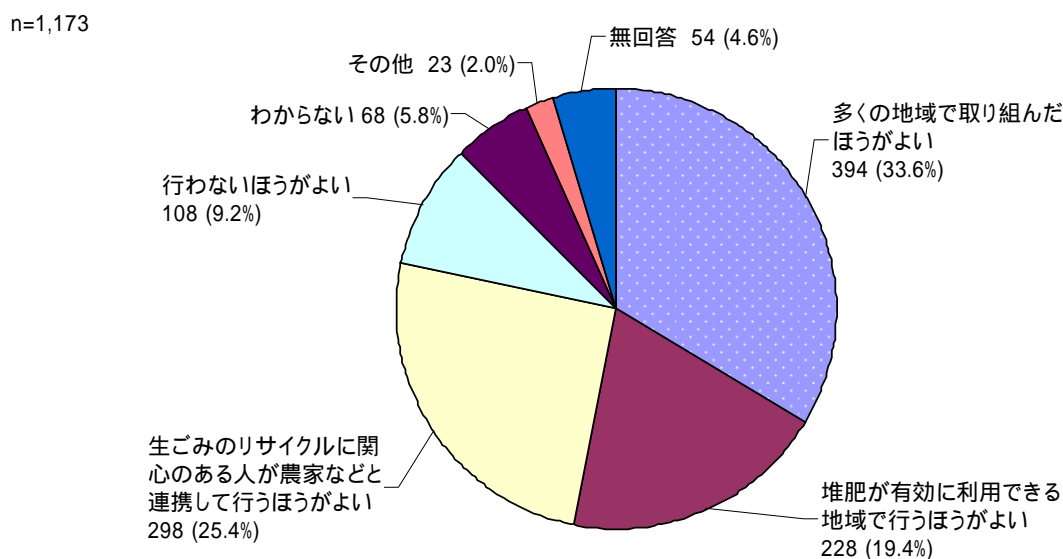
【その他の主な内容】

主な内容
安全、安心な生ごみであること
過剰な負担にならないこと（手間がかからないこと）
電気などのエネルギーを使わないこと
できた堆肥が野菜などと交換できるなど、メリットがあること
設置スペースが確保できること（家庭用生ごみ処理機器がコンパクトであること）
高齢者への配慮
使用したくない

Q5 . 自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 地域で行う生ごみのリサイクルは、多くの地域で取り組んだほうがよい
- 2 地域で行う生ごみのリサイクルは、堆肥が有効に利用できる地域で行うほうがよい
- 3 地域で行う生ごみのリサイクルは、生ごみのリサイクルに関心ある人々が、農家などと連携するなどして堆肥の有効利用先を確保しながら、行うほうがよい
- 4 地域で行う生ごみのリサイクルは、行わないほうがよい
- 5 わからない
- 6 その他（ ）

自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルに対する考えを聞いた結果、最も多かったのは、「1 多くの地域で取り組んだほうがよい」(33.6%)であった。次いで、「3 生ごみのリサイクルに関心がある人が農家などと連携して行うほうがよい」(25.4%)、「2 堆肥が有効に利用できる地域で行うほうがよい」(19.4%)が続いた。



グラフ5 Q5.業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する考え

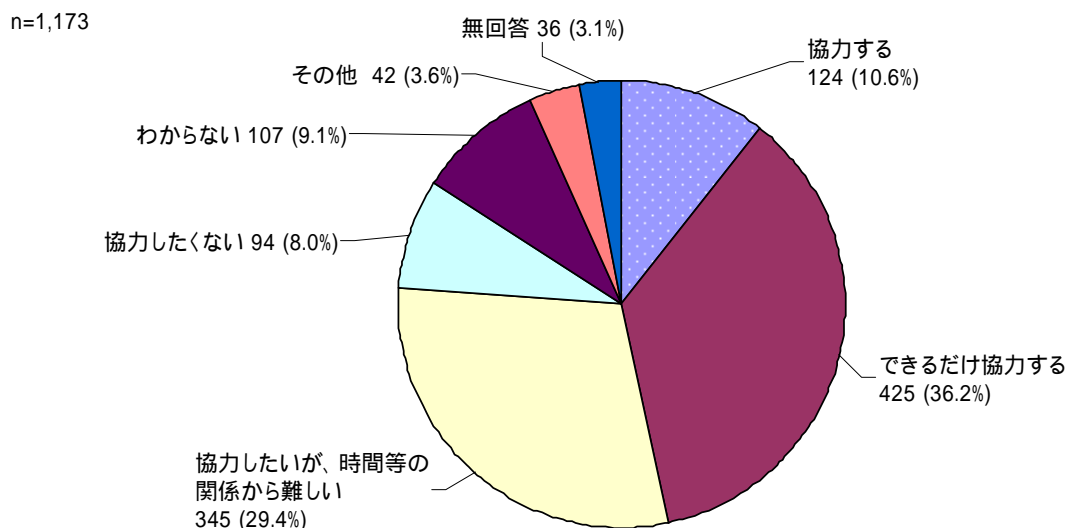
【その他の主な内容】

主な内容
地域で取り組むことは良いことだと思うが、業務用生ごみ処理機までの距離が心配
家庭で堆肥化を行うことを基本として、できない家庭のみ地域で取り組むのがよいと思う
業務用生ごみ処理機の設置場所、管理者等について十分に話し合う必要があると思う
堆肥を販売して、費用を確保するのがよいと思う
地域で取り組んでも一部の人が行わないと思う

Q 6 . 自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルを行うことになった場合、あなたは当番などに協力できますか。あなたたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 協力する
- 2 できるだけ協力する
- 3 協力したいが、時間等の関係から難しい
- 4 協力したくない
- 5 わからない
- 6 その他（)

自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルを行うことになった場合、当番などに協力できますかと聞いた結果、最も多かったのは、「2 できるだけ協力する」(36.2%)であった。次いで、「3 協力したいが時間等の関係から難しい」(29.4%)、「1 協力する」(10.6%)が続いた。



グラフ6 Q6.業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する協力

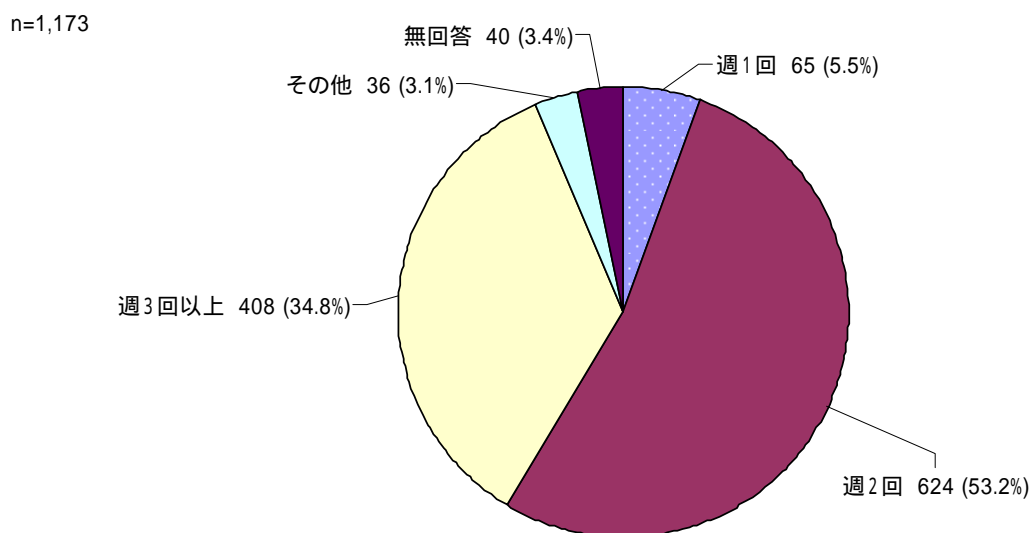
【その他の主な内容】

主な内容
高齢（体力がない）のため協力するのは難しい
家庭の事情（子どもが小さい、共働き、介護など）により協力することは難しい
住民が平等に協力することが必要だと思う
臭いや虫などが苦手なため、リサイクル方法によっては難しいと思う
パートなど専属の管理者を置いた方がよいと思う
多くの家庭で主婦の負担が増えるのではないかと思う

Q 8 . 生ごみの分別を行った場合、生ごみの収集は何回必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 週 1 回
- 2 週 2 回
- 3 週 3 回以上
- 4 その他 ()

生ごみの分別を行った場合、生ごみの収集は何回必要だと思いますかと聞いた結果、最も多かったのは、「2 週 2 回」(53.2%)であった。次いで、「3 週 3 回以上」(34.8%)、「1 週 1 回」(5.5%)が続いた。



グラフ8 Q8. 生ごみの分別を行った場合に必要収集回数

【その他の主な内容】

主な内容
生ごみだけだと臭いが発生すると思うので、収集回数を多くしたほうがよいと思う
夏は収集回数を多くしたほうがよいと思う(夏は3回、冬は2回など)
分別の方法によると思う
生ごみは家庭で堆肥として利用している
生ごみの分別には協力したくない

Q9 . 生ごみの資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

252 件の生ごみの資源化についての自由意見があった。それを 5 つの項目に整理した。

生ごみの処理やリサイクルに関する意見

- 生ごみのリサイクルは必要なことだと思う。
- 生ごみをリサイクルできれば、可燃ごみが減って環境に優しいと思う。
- 生ごみのリサイクルには、自治会、地域の協力が必要と思う。
- 資源化の前に、生ごみを出さない工夫、余分なものを買わないことが必要だと思う。
- 資源化されたものが、しっかり利用できる仕組みづくりが必要だと思う。
- 簡単な水切り道具があるとよいと思う。

生ごみの分別に関する意見

- 分別は負担にならない方法にして欲しい。
- 生ごみを分別した場合、臭いや害虫の発生が心配です。
- 生ごみを分別した場合、収集方法にあった保管容器等の設置を考えて欲しい。
- 生ごみの分別は夏の暑い時期の対策が課題だと思う。
- 生ごみは可燃ごみと分けて同じ収集日に別の袋で出せばよいと思う。
- 生ごみの分別方法は多くの人が協力できる方法がよいと思う。
- 生ごみは、スーパー等での買い物ついでに出せばよいと思う。
- 今の分別は細かいので、生ごみの分別は必要ないと思う。
- 分別の徹底が必要だと思う。
- 生ごみの分別収集は難しいと思う。
- 生ごみを分別した場合、置き場に困ってしまう。
- 「生ごみ専用」の袋を作り、「燃せるごみ」の袋よりも格安にするとよいと思う。

堆肥化に関する意見

- 生ごみを堆肥化し、野菜作りを楽しんでいます。
- 堆肥の利用先があるのであれば、生ごみのリサイクルに取り組みたい。
- 生ごみからできる堆肥が安全であれば活用したい。
- 生ごみからできた堆肥をぜひ使ってみたい。
- 家庭菜園をやっている人が増加しているので、堆肥化の需要は多いと思う。
- 生ごみからできる堆肥の有効性を確認する必要があると思う。
- 生ごみを出す人、堆肥化する人、使用する人、それぞれの連携が必要だと思う。
- できた堆肥は住民や農家に安く販売したらよいと思う。
- 家庭で堆肥化した場合、できた堆肥の量によって野菜等に交換できるとリサイクルに対する意欲も増してくると思う。

処理やリサイクル手法に関する意見

- 生ごみはこれまでどおり焼却処理がよいと思う。
- 費用がかからないリサイクル方法がよいと思う。
- まず、食品関連事業者の生ごみのリサイクルに取り組み、その後、一般家庭の生ごみのリサイクルに取り組むことがよいと思う。
- 生ごみは各家庭でリサイクルしたほうがよい。
- 家庭用生ごみ処理機器での生ごみのリサイクルは難しいと思う。
- 集合住宅では、堆肥の利用先がないので、家庭用生ごみ処理機器によるリサイクルは無理だと思う。
- 電動生ごみ処理機器を購入したが、臭いなどが発生したため、使わなくなった。
- 電動生ごみ処理機器を購入したが、手間がかかるため、使わなくなった。
- 家庭用生ごみ処理機器で堆肥化した場合、堆肥の回収が必要だと思う。
- 家庭用生ごみ処理機器の使い方などの説明会を実施して欲しい。
- 家庭用生ごみ処理機器を各家庭に配布して、リサイクルを進めて欲しい。
- 家庭用生ごみ処理機器の購入補助制度を拡充して欲しい
- 仕事等があるので、地域単位で生ごみのリサイクルに取り組むのは難しいと思う。
- 多くの家庭では、できた堆肥の利用はできないと思うので、地域でのリサイクルがよいと思う。
- 生ごみを収集すると人件費がかかるので、地域でのリサイクルがよいと思う。
- 全地域での生ごみのリサイクルは難しいと思う。
- 行政がまとめてリサイクルするのがよいと思う。自治会や学区単位では難しいと思う。
- 堆肥化以外の方法がよいと思う。
- 高齢者でもできる方法がよいと思う。

その他の意見

- 資源化はよい事だが、費用等の問題があると思うので、住民には詳しく説明して欲しい。
- 生ごみの資源化により野菜がより安価で購入できればよいと思う。
- 生ごみは土になることを学校で子どもに教えて欲しい。
- モデル地域を指定して、実証実験をする。
- 住民意識の向上が必要だと思う。
- スーパーの袋で出せるようにして欲しい。
- 生ごみの資源化をするためには、ごみ処理を有料化した方がよいと思う。
- 生ごみを資源化する場合のデメリットが知りたい。
- 主婦の意見を聞く必要があると思う。

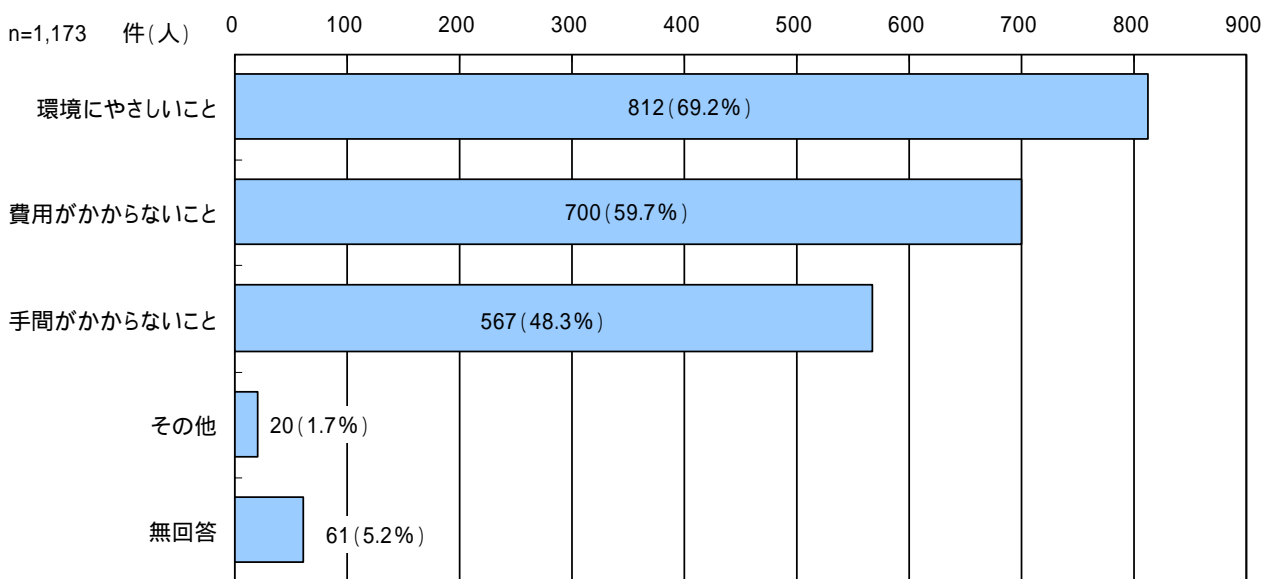
調査の結果

～ . 剪定枝のリサイクルについて (Q 1 0 ~ Q 1 4) ～

Q10. あなたが剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことは何ですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。

- 1 環境にやさしいこと
- 2 費用がかからないこと
- 3 手間がかからないこと
- 4 その他 ()

剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことについて聞いた結果、最も多かったのは、「1 環境にやさしいこと」(69.2%)であった。次いで、「2 費用がかからないこと」(59.7%)、「3 手間がかからないこと」(48.3%)が続いた。



グラフ9 Q10. 剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うこと

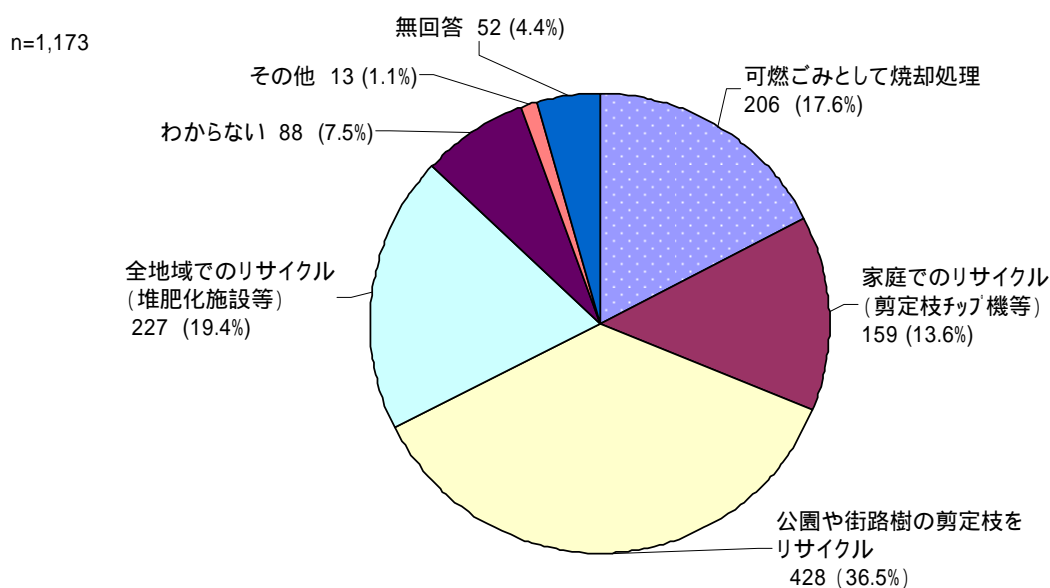
【その他の主な内容】

主な内容
山や自宅で焼却しないようにしてほしい
自治会等の近隣住民の協力
剪定枝は出ない
機械の安全性、取り扱い方が判りやすい、故障しにくいことなど
場所をとらないこと

Q11. 剪定枝の処理やリサイクルには色々は方法がありますが、剪定枝の処理やリサイクルについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 これまでどおり可燃ごみとして焼却処理する
- 2 剪定枝チップ機などを使用して、家庭の植木の剪定によって生じた剪定枝から堆肥や雑草防止材などを作り、庭や家庭菜園などで利用する
- 3 公園や街路樹などの植木の剪定や伐採、草刈によって生じる剪定枝から、堆肥やチップを作り、土壌改良剤、マルチング材として、公園内で利用したり、イベントなどで配布したりする
- 4 剪定枝を全地域で分別し、剪定枝から堆肥やチップを作る施設でリサイクルする
- 5 わからない
- 6 その他()

剪定枝の処理やリサイクルについて、考えに近いものを聞いた結果、最も多かったのは、「3 公園や街路樹の剪定枝をリサイクル」(36.5%)であった。次いで、「4 全地域でのリサイクル(堆肥化施設等)」(19.4%)、「1 可燃ごみとして焼却処理」(17.6%)が続いた。



グラフ10 Q11. 剪定枝の処理やリサイクルに対する考え

【その他の主な内容】

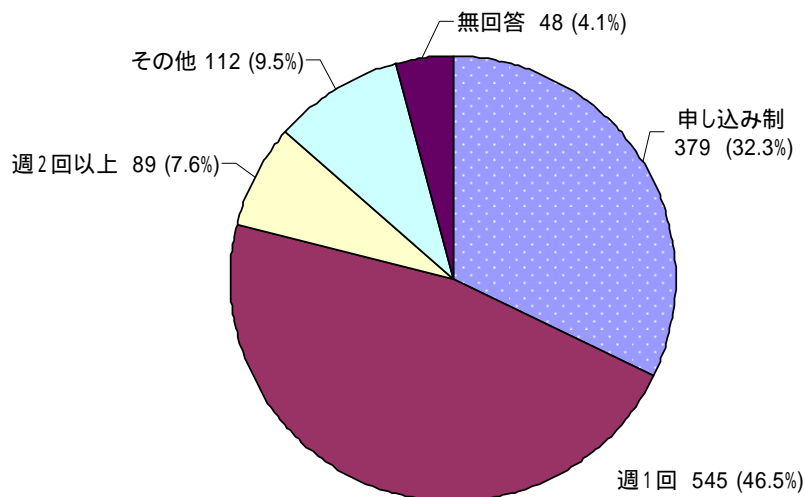
主な内容
木の葉は堆肥に、枝は燃料に使用するのがよいと思う
発電、熱などエネルギー利用するのがよいと思う
リサイクル製品(堆肥、チップなど)の利用先が確保される方法がよいと思う
堆肥化やチップ化がよいと思うが、利用先が確保できるかが心配
堆肥化には賛成だが、臭いがでないようにしてほしい
焼却施設などに剪定枝チップ機を設置し、自由に使用できるとよいと思う

Q13. 剪定枝の分別を行った場合、剪定枝の収集は何回必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 申し込み制（電話等での予約制）
- 2 週1回
- 3 週2回以上
- 4 その他（ ）

剪定枝の分別を行った場合、剪定枝の収集は何回必要だと思いますかと聞いた結果、最も多かったのは、「2 週1回」(46.5%)であった。次いで、「1 申し込み制」(32.3%)、「3 その他」(9.5%)が続いた。

n=1,173



グラフ12 Q13. 剪定枝の分別を行った場合に必要収集回数

【その他の主な内容】

主な内容
集合住宅（マンション、アパート等）などで剪定枝は出ない
月1回
月2回（2週に1回程度）
剪定枝が出るような家は、庭があるはずなので、その家庭でリサイクルすることが基本だと思う
夏場は月2回、冬場は申し込み制
季節によって排出量が違うと思うので、季節で収集回数を変えるのがよいと思う
剪定する樹木がある家、ない家があるので、週単位の収集は必要ないと思う
量によっては申し込み制にした方がよいと思う
今までの可燃物の中で取り扱って欲しい

Q14．剪定枝の資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

160 件の剪定枝の資源化についての自由意見があった。それを5つの項目に整理した。

剪定枝の処理やリサイクルに関する意見

- 剪定枝は資源化して欲しい。
- 剪定枝をリサイクルすることにより、CO₂発生量が少なくなってよいと思う。
- いつも枝をごみ袋に入れて排出していますが、すぐ一杯になるため、資源化には賛成です。
- 剪定した枝葉は、生垣等の根元に敷いて、ごみの減量化に協力するべきだと思う。

剪定枝の分別に関する意見

- 剪定枝を分別収集するならば可燃ごみと別な日に収集して欲しい。
- 剪定枝は全家庭から出るものではないので、大型ごみなどと同じように、申込制などで収集し、リサイクルできたらと思う。
- 剪定枝と生ごみが一緒に出されている現状では網が切れてしまい、カラスに荒らされるため、剪定枝の分別収集をして欲しい。
- 剪定枝のリサイクルにあたっては、分かりやすい分別方法にして欲しい。
- 分別が正しく行われることが必要だと思う。
- 剪定枝は出来るだけ細かく切ってから出すなどの配慮が必要だと思います。
- 大量に剪定枝を出す事業者などからは、料金を徴収するべきだと思う。
- リサイクルについては賛成だが、これまでどおり無料で収集して欲しい。

チップ化、堆肥化に関する意見

- 剪定枝・草・木材片等は、チップ状にしてリサイクルすれば、土の質が改良されます。
- 農家なので畑に持っていきます。葉は畑の堆肥として利用しています。
- 剪定枝からできたチップは、化学肥料に比べてとても安全で優れていると聞いています。
- チップや堆肥が利用されるのであれば、リサイクルに協力したい。

処理やリサイクルの手法に関する意見

- 剪定枝は焼却ではなく、環境に優しい方法でリサイクルするのがよいと思う。
- 剪定枝はチップ化し、堆肥として利用するのがよい。
- 剪定枝チップ機を個人や自治会で簡便に使用できるようにして欲しい。
- チップ化し、農家などに協力してもらい無料で配る。
- できたチップや堆肥を有料で配布して欲しい。
- できたチップや堆肥は無料で配布して欲しい。
- これまでどおり焼却処理するのがよい。
- チップ化し、公園などの公共施設などで利用するのがよい。
- 剪定枝チップ機の導入はよいことだと思う。

- 剪定枝は家庭単位でリサイクルするのがよいと思う。
- 剪定枝チップ機は費用がかかると思う。環境の事を考えるのはとても良い事だと思うが、手間やお金がかかるのは、あまり気が進まない。
- チップ化しても需要と供給のバランスがとれないと思う。
- 大型リサイクル施設を作ることには反対です。
- 剪定枝チップ機の購入補助制度の整備や貸出台数を増やして欲しい。
- 剪定枝を焼却することはもったいないので、燃料として活用できないだろうか。
- 自治会単位で、剪定枝のリサイクルに取り組むことが必要だと思う。
- 行政等で収集し、効率良くリサイクルして、出来た製品を有効利用出来るようにしないとコストが高くなると思う。
- チップ化したものを販売したり、公共で使用したりして、経費を軽減すると良いと思う。
- 資源化することによって、ごみ処理費用が増えるのであれば、現在のままでよいと思う。
- 剪定枝チップ機など、手間のかかる方法は各家庭には無理だと思う。
- 一般家庭からの剪定枝は量が限られているので、公園や街路樹などの剪定枝をリサイクルした方がよいと思う。
- できたチップや堆肥が余らないようにして計画することが大切だと思う。
- 地域特性に応じて、検討するべきだと思う。
- 剪定枝をチップ化して、堆肥等に再利用出来る家庭が何%あるか。できたチップをどのようにして再利用するか、考えていくべきだと思う。

その他の意見

- 集合住宅なので、剪定枝はでない。
- 剪定枝は現在週1回出している。時期的に春・秋です。
- 庭からでる剪定枝は植木屋さんが剪定後に持っていっています。
- 地域で回収したものは地域に還元して欲しい。
- 農家の人に協力を呼びかけて欲しい。
- 剪定枝のリサイクルに関するデメリットが知りたい。
- 無駄に剪定しないことが大切だと思う。
- 剪定枝のリサイクルの方法がいろいろあるとは知らなかった。
- 自分で剪定していますが、小枝等は枯らせて畑に埋めています。
- 剪定枝のチップの使い方を初めて知りました。配布してくれれば使ってみたいです。イベント等で大きくアピールしてみたらどうでしょうか。

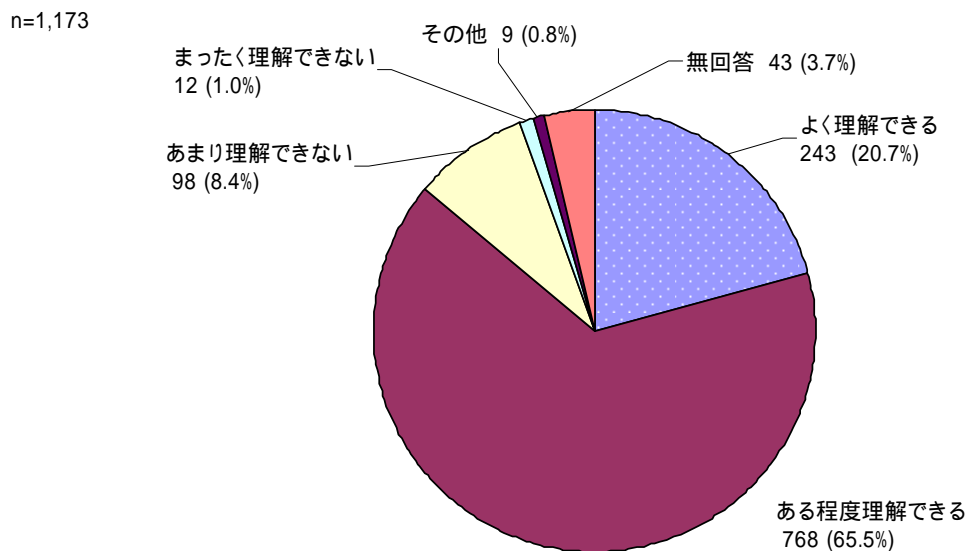
調査の結果

～ . ごみ処理広域化について (Q 1 5、 Q 1 6) ～

Q15. 同封しました「ごみ処理広域化の考え方」(リーフレット)をご覧になって、ごみ処理広域化について、どのようにお考えですか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 よく理解できる
- 2 ある程度理解できる
- 3 あまり理解できない
- 4 まったく理解できない
- 5 その他 ()

「ごみ処理広域化の考え方」(リーフレット)をご覧になって、ごみ処理広域化について、どのようにお考えですかと聞いた結果、最も多かったのは、「2 ある程度理解できる」(65.5%)であった。次いで、「1 よく理解できる」(20.7%)、「3 あまり理解できない」(8.4%)が続いた。



グラフ13 Q15.ごみ処理広域化に対する考え

【その他の主な内容】

主な内容
ごみ処理広域化のデメリットについて説明がないのでわからない
運搬コスト、運搬時のCO ₂ 、交通事情等はどうするのか
リーフレットが読みにくく、分かり難い。協議会についても知らなかった
もっと分かりやすく書いて欲しい

Q16．ごみ処理広域化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

246 件のごみ処理広域化についての自由意見があった。それを5つの項目に整理した。

ごみ処理広域化に関する意見

- 効率的、低公害であればごみ処理広域化をしたほうがよいと思う。
- CO₂ 排出量が削減されるので、広域化については賛成です。
- 「ごみの分け方や出し方」を統一できる事はとても良い事だと思う。
- ごみ処理広域化する必要はないと思う。
- ごみ処理広域化によって、CO₂ 排出量が増加するのではないかとと思う。
- ごみ処理広域化は、収集運搬費がかかるのではないかとと思う。
- なぜ、ごみ処理広域化を一市三町で行うのかがわからない。市町の住み方、考え方が違うので、デメリットのほうが多いのではないかとと思う。
- ごみ処理広域化では、処理手数料や分別収集等の違いが課題だと思う。
- ごみ処理広域化の前に、ごみを出さないといった本質的な施策を打つ必要があると思う。
- コストのかからない方法を検討する必要があると思う。
- ごみ処理広域化の費用負担については、各自治体が人口比等によって平等であることがよいと思う。
- 目標が平成 32 年度では遅すぎると思う。
- ごみ広域化については、行政と住民でよく検討する必要があると思う。
- 家庭用生ごみ処理機が普及すれば、広域化しても減量に貢献出来ると思う。
- ごみ処理広域化によって、ごみ処理手数料や収集回数はどうなるのか。
- ごみ処理広域化によって、本当にごみが減量化できるのか。

「ごみ処理広域化の考え方(リーフレット)」に関する意見

- ごみ処理広域化を前提にしている為、都合の良い説明になっている。
- ごみ処理施設をどこに作るのか等、もう少し具体的に書いて欲しかった。
- 記載されているごみ処理広域化のメリットは、メリットと思えない。
- 収集運搬のコストを勘案して示して欲しかった。
- 広域化のデメリットについて記載して欲しかった。
- 高齢の方もいるので、フローとかパブリックコメント等の言葉は分かりづらいと思う。
- 小田原市以外の三町でプラ容器が可燃ごみとして扱われていることを知らなかった。

ごみ処理施設に関する意見

- 環境負荷の少ない施設にして欲しい。
- 必要不可欠なものだと思うので、効率の良い施設を検討して欲しい。
- 施設の近隣住民の迷惑にならない様に配慮して欲しい。
- ごみ処理施設の建設候補地の選定にあたっては、住民への説明が必要だと思う。

- 施設が集約化されることにより、その地域の環境が悪化するのではないか。
- 熱回収施設の余熱でプール等を作って欲しい。
- 熱回収施設で発電し、電力会社に売電するのがよいと思う。
- 現在のごみ処理施設を使い続けることはできないのか。

行政への要望

- ごみを大量に出す事業者と一般家庭の格差を是正する事も考慮して、広域化を進めて欲しい。
- 自治会の代表者に意見を聞いたほうがよいと思う。
- 住民によくわかるように説明して欲しい。
- もっと説明会を開催して欲しい。
- 住民負担の少ない方法にして欲しい。
- ごみの分け方や出し方を統一して資源化することはよい事だと思うが、ごみの分別はあまりに細分化しないで欲しい。
- 生ごみについては各家庭でなるべく無駄の出ないように工夫することが大切だと思うが、トレーなどを無くす工夫をスーパーなどに要請してもらいたい。
- 費用対効果を考え、検討して欲しい。
- 収集回数は減らさないで欲しい。
- 資源ごみなどの収集回数を増やして欲しい。
- ごみの減量化を積極的に行って欲しい。
- 広域化について、全く知らなかった。もっと広報活動が必要だと思う。
- 分別、リサイクルを徹底して欲しい。
- レジ袋の削減に取り組んで欲しい。

その他の意見

- ごみ処理の現状や知識を伝える必要があると思う。
- ある町では、町民一体となって、ごみを細かく分別し、ごみが一つも無い町づくりを目指しているとのこと。このような町を次世代の人たちに引き継ぎたいものです。
- 夜間回収ができませんでしょうか。渋滞緩和、カラス被害対策、防犯効果があると思います。
- レジ袋でごみが出せたらよいと思う。
- 観光地であるこの地域のごみ処理はなかなか難しいと思う。

調査の結果

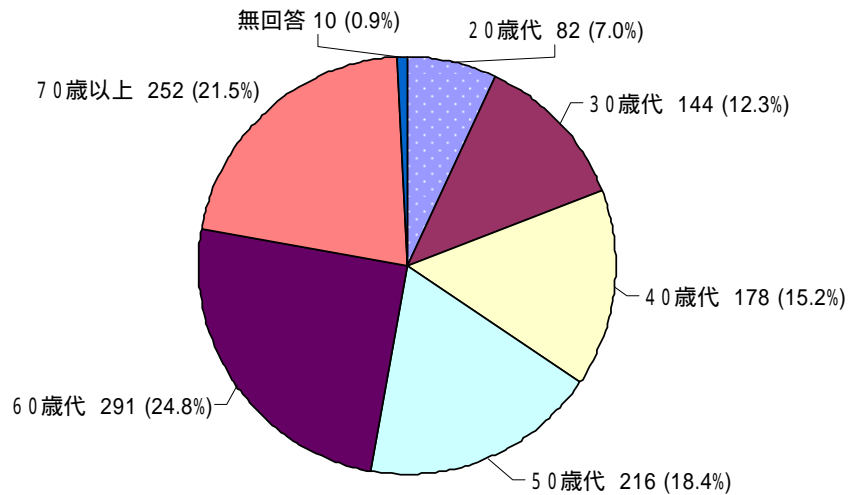
～ . ご自身について (Q 1 7 ~ Q 2 2) ~

Q17. あなたの年代にあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|--------|--------|---------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳以上 |

年代を聞いた結果、最も多かったのは、「5 60歳代」(24.8%)であった。次いで、「6 70歳以上」(21.5%)、「4 50歳代」(18.4%)が続いた。

n=1,173



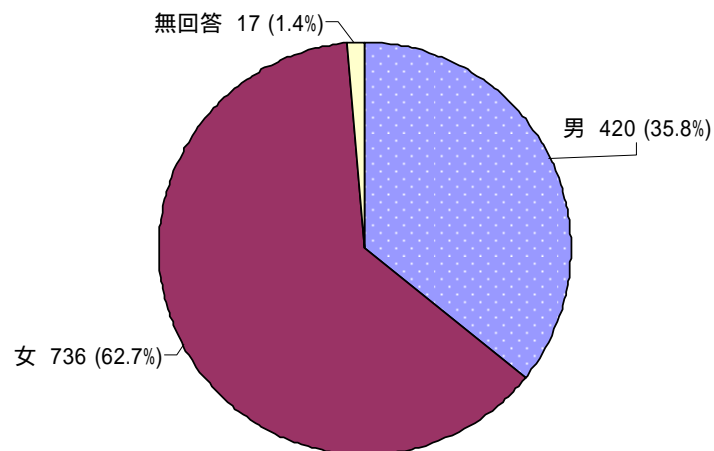
グラフ14 Q17.年代

Q18. あなたの性別にあてはまるものをお選びください。

- | | |
|-----|-----|
| 1 男 | 2 女 |
|-----|-----|

性別を聞いた結果、「2 女」(62.7%)、「1 男」(35.8%)であった。

n=1,173



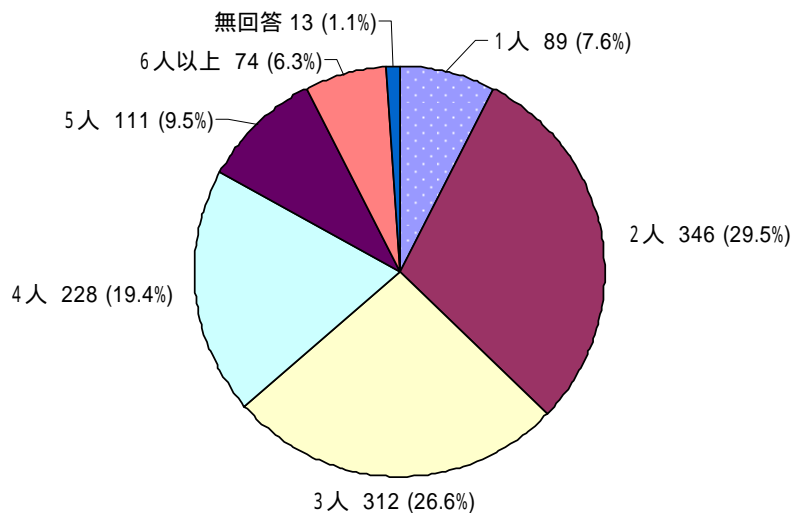
グラフ15 Q18.性別

Q19 . 世帯の人数にあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|------|------|--------|
| 1 1人 | 2 2人 | 3 3人 |
| 4 4人 | 5 5人 | 6 6人以上 |

世帯人数を聞いた結果、最も多かったのは、「2 2人」(29.5%)であった。次いで、「3 3人」(26.6%)、「4 4人」(19.4%)が続いた。

n=1,173



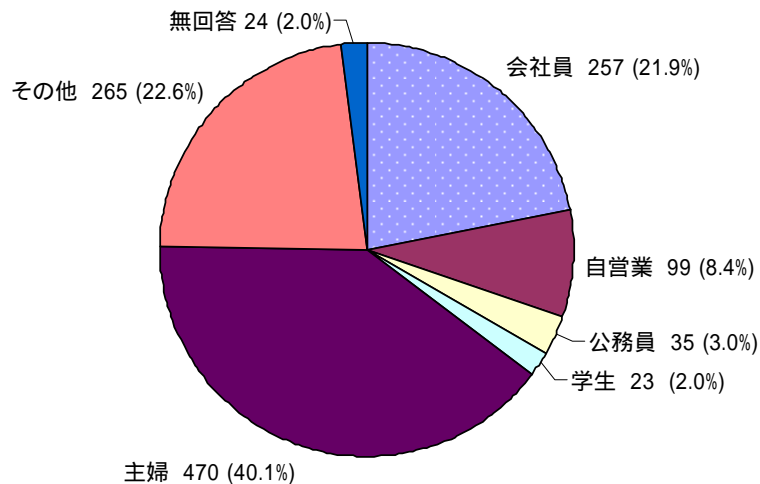
グラフ16 Q19. 世帯人数

Q20 . あなたの職業にあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1 会社員 | 2 自営業 | 3 公務員 |
| 4 学生 | 5 主婦 | 6 その他 |

職業を聞いた結果、最も多かったのは、「5 主婦」(40.1%)であった。次いで、「6 その他」(22.6%)、「1 会社員」(21.9%)が続いた。

n=1,173

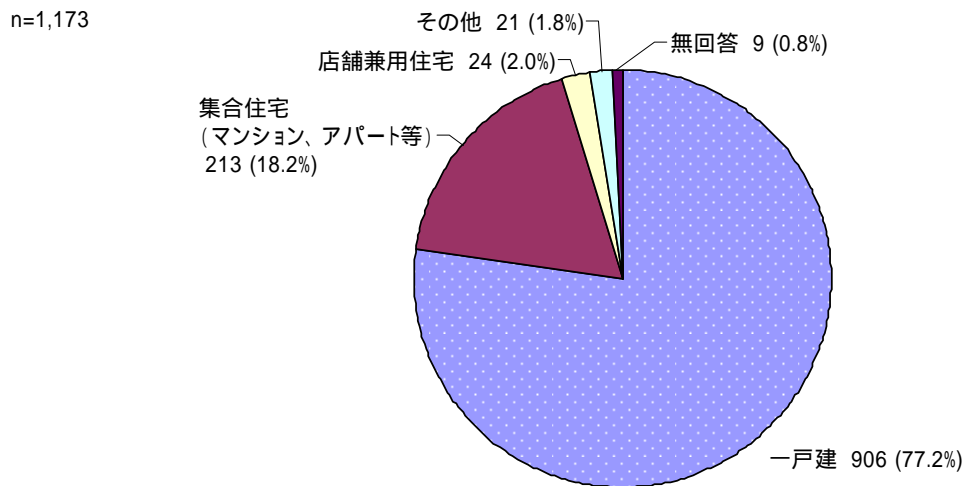


グラフ17 Q20. 職業

Q21. あなたのお住まいの形態にあてはまるものをお選びください。

- | | |
|----------|----------------------|
| 1 一戸建 | 2 集合住宅(マンション、マンション等) |
| 3 店舗兼用住宅 | 4 その他 |

住居形態を聞いた結果、最も多かったのは、「1 一戸建」(77.2%)であった。次いで「2 集合住宅(マンション、アパート等)」(18.2%)、「3 店舗兼用住宅」(2.0%)が続いた。

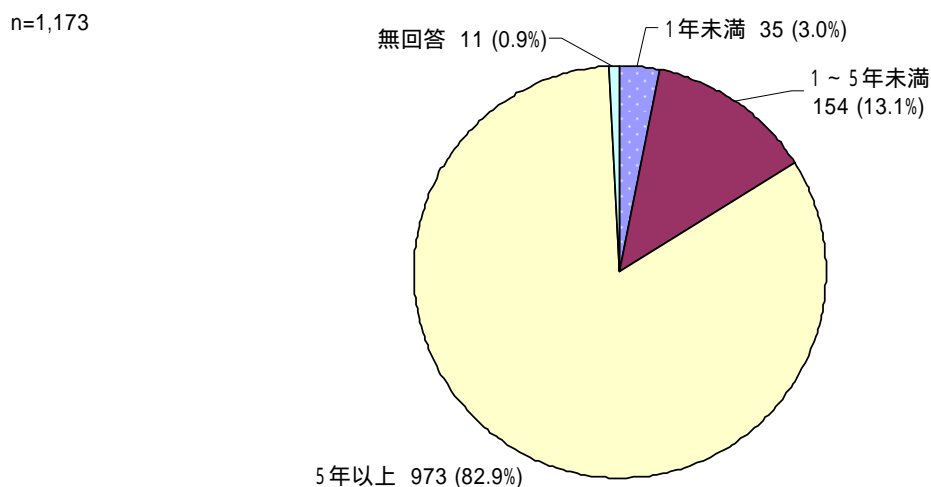


グラフ18 Q21. 住居形態

Q22. あなたの居住年数にあてはまるものをお選びください。

- | | | |
|--------|----------|--------|
| 1 1年未満 | 2 1～5年未満 | 3 5年以上 |
|--------|----------|--------|

居住年数を聞いた結果、「3 5年以上」(82.9%)が最も多く、「2 1～5年未満」(13.1%)、「1 1年未満」(3.0%)が続いた。



グラフ19 Q22. 居住年数

資 料

～ 属性間クロス集計（単数回答の質問のみ）～

Q3 . 生ごみの処理やリサイクルに効果的と思う取り組み

		生ごみを出さない工夫や水切りを行う(焼却処理)	家庭単位でのリサイクル(家庭用生ごみ処理機器)	地域単位でのリサイクル(業務用生ごみ処理機)	全地域でのリサイクル(堆肥化、メタン発酵施設)	わからない	その他	無回答
回答者数		584	148	181	198	21	6	35
年代	20歳代	33	8	22	14	2	0	3
	30歳代	63	17	31	28	2	0	3
	40歳代	64	25	35	41	6	2	5
	50歳代	104	21	40	41	6	2	2
	60歳代	159	45	31	42	3	0	11
	70歳以上	155	31	21	30	2	2	11
	無回答	6	1	1	2	0	0	0
世帯人数	1人	58	1	12	11	4	1	2
	2人	180	51	40	58	5	1	11
	3人	153	42	48	57	4	1	7
	4人	100	24	53	39	5	2	5
	5人	48	23	13	19	1	1	6
	6人以上	39	6	14	10	1	0	4
	無回答	6	1	1	4	1	0	0
住居形態	一戸建	448	127	135	152	11	6	27
	集合住宅	109	15	39	37	7	0	6
	店舗兼用	12	3	2	3	2	0	2
	その他	11	2	4	3	1	0	0
	無回答	4	1	1	3	0	0	0

Q5 . 業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する考え

		多くの地域で 取り組む	堆肥が有効 に利用できる 地域で行う	生ごみのリサ イクルに関心 のある人々 が行う	行わないほう がよい	わからない	その他	無回答
回答者数		394	228	298	108	68	23	54
年代	20歳代	32	14	31	2	1	1	1
	30歳代	53	29	37	14	7	2	2
	40歳代	65	29	49	15	11	5	4
	50歳代	70	35	65	28	12	4	2
	60歳代	106	61	58	32	7	7	20
	70歳以上	66	59	56	17	28	3	23
	無回答	2	1	2	0	2	1	2
世帯人数	1人	25	23	20	4	6	2	9
	2人	115	85	70	34	23	3	16
	3人	108	57	79	33	19	5	11
	4人	76	38	75	13	13	5	8
	5人	38	18	31	14	4	4	2
	6人以上	27	5	22	10	2	3	5
	無回答	5	2	1	0	1	1	3
住居形態	一戸建	299	174	229	88	50	21	45
	集合住宅	77	47	52	16	13	1	7
	店舗兼用	7	2	11	2	2	0	0
	その他	8	4	5	2	2	0	0
	無回答	3	1	1	0	1	1	2

Q 6 . 業務用生ごみ処理機による地域でのリサイクルに対する協力

		協力する	できるだけ協力する	協力したいが時間等の関係から難しい	協力したくない	わからない	その他	無回答
回答者数		124	425	345	94	107	42	36
年代	20歳代	7	23	36	8	7	1	0
	30歳代	7	52	56	13	13	3	0
	40歳代	14	75	52	12	15	6	4
	50歳代	29	61	83	25	16	2	0
	60歳代	36	123	69	22	19	7	15
	70歳以上	30	91	44	14	36	22	15
	無回答	1	0	5	0	1	1	2
世帯人数	1人	11	23	25	9	9	7	5
	2人	42	134	86	29	32	15	8
	3人	30	113	98	24	32	8	7
	4人	22	85	78	17	14	4	8
	5人	9	44	32	12	9	3	2
	6人以上	9	25	21	3	8	4	4
	無回答	1	1	5	0	3	1	2
住居形態	一戸建	102	336	257	74	76	33	28
	集合住宅	19	78	62	19	22	7	6
	店舗兼用	1	7	13	0	3	0	0
	その他	1	4	10	1	4	1	0
	無回答	1	0	3	0	2	1	2

Q7. 生ごみの分別収集に対する協力

		どのような方法でも協力する	収集方法によっては協力する	協力したくない	わからない	その他	無回答
回答者数		228	751	67	65	18	44
年代	20歳代	16	57	4	4	1	0
	30歳代	18	115	7	1	2	1
	40歳代	38	116	7	12	1	4
	50歳代	36	148	20	8	2	2
	60歳代	70	174	13	15	2	17
	70歳以上	46	138	16	24	10	18
	無回答	4	3	0	1	0	2
世帯人数	1人	18	49	8	5	3	6
	2人	71	224	12	23	5	11
	3人	63	195	22	19	4	9
	4人	38	162	10	5	5	8
	5人	19	74	7	6	1	4
	6人以上	14	43	7	6	0	4
	無回答	5	4	1	1	0	2
住居形態	一戸建	169	585	51	49	16	36
	集合住宅	44	137	13	12	2	5
	店舗兼用	7	14	1	2	0	0
	その他	3	13	2	2	0	1
	無回答	5	2	0	0	0	2

Q 8 . 生ごみの分別を行った場合に必要な収集回数

		週1回	週2回	週3回以上	その他	無回答
回答者数		65	624	408	36	40
年代	20歳代	6	41	33	2	0
	30歳代	7	74	57	5	1
	40歳代	5	100	62	8	3
	50歳代	13	105	90	7	1
	60歳代	19	160	87	7	18
	70歳以上	15	138	77	7	15
	無回答	0	6	2	0	2
世帯人数	1人	11	52	19	3	4
	2人	23	190	113	10	10
	3人	14	159	121	9	9
	4人	11	124	80	4	9
	5人	3	64	36	5	3
	6人以上	2	31	35	3	3
	無回答	1	4	4	2	2
住居形態	一戸建	47	487	313	26	33
	集合住宅	17	113	70	8	5
	店舗兼用	0	11	13	0	0
	その他	1	9	10	1	0
	無回答	0	4	2	1	2

Q11. 剪定枝の処理やリサイクルに対する考え

		可燃ごみとして焼却処理	家庭でのリサイクル(剪定枝チップ機等)	公園や街路樹の剪定枝をリサイクル	全地域でのリサイクル(堆肥施設等)	わからない	その他	無回答
回答者数		206	159	428	227	88	13	52
年代	20歳代	10	10	33	22	5	0	2
	30歳代	15	13	67	31	16	0	2
	40歳代	16	20	80	36	17	3	6
	50歳代	38	28	88	40	18	2	2
	60歳代	59	50	97	54	12	2	17
	70歳以上	68	38	62	40	19	5	20
	無回答	0	0	1	4	1	1	3
世帯人数	1人	20	9	21	21	8	5	5
	2人	73	46	127	64	20	0	16
	3人	48	47	112	60	33	4	8
	4人	31	27	101	41	15	2	11
	5人	18	16	44	22	6	0	5
	6人以上	16	14	20	15	3	1	5
	無回答	0	0	3	4	3	1	2
住居形態	一戸建	165	136	313	174	64	12	42
	集合住宅	28	17	95	45	20	0	8
	店舗兼用	8	4	9	1	2	0	0
	その他	5	2	10	3	1	0	0
	無回答	0	0	1	4	1	1	2

Q12. 剪定枝の分別収集に対する協力

		どのような方法でも協力する	収集方法によっては協力する	協力したくない	わからない	その他	無回答
回答者数		207	721	58	120	23	44
年代	20歳代	17	55	4	4	1	1
	30歳代	17	103	4	16	3	1
	40歳代	36	109	6	21	3	3
	50歳代	36	140	14	24	2	0
	60歳代	59	176	14	18	5	19
	70歳以上	40	136	16	35	9	16
	無回答	2	2	0	2	0	4
世帯人数	1人	19	45	6	11	4	4
	2人	64	212	18	31	9	12
	3人	51	194	15	37	6	9
	4人	45	145	9	18	2	9
	5人	14	80	4	9	0	4
	6人以上	12	40	5	12	2	3
	無回答	2	5	1	2	0	3
住居形態	一戸建	160	576	44	77	17	32
	集合住宅	38	117	9	35	6	8
	店舗兼用	5	12	2	4	0	1
	その他	2	14	2	3	0	0
	無回答	2	2	1	1	0	3

Q13. 剪定枝の分別を行った場合に必要な収集回数

		申し込み制	週1回	週2回以上	その他	無回答
回答者数		379	545	89	112	48
年代	20歳代	37	32	5	7	1
	30歳代	55	72	5	11	1
	40歳代	70	75	10	18	5
	50歳代	67	95	20	33	1
	60歳代	87	148	19	21	16
	70歳以上	62	121	30	19	20
	無回答	1	2	0	3	4
世帯人数	1人	29	34	13	8	5
	2人	105	176	21	31	13
	3人	87	160	23	31	11
	4人	94	92	12	22	8
	5人	33	52	13	9	4
	6人以上	28	28	7	7	4
	無回答	3	3	0	4	3
住居形態	一戸建	283	438	67	81	37
	集合住宅	86	77	18	24	8
	店舗兼用	4	15	3	2	0
	その他	4	13	1	3	0
	無回答	2	2	0	2	3

Q15. ごみ処理広域化に対する考えについて

		よく理解できる	ある程度理解できる	あまり理解できない	まったく理解できない	その他	無回答
回答者数		243	768	98	12	9	43
年代	20歳代	15	56	8	1	1	1
	30歳代	19	109	13	1	0	2
	40歳代	33	128	12	0	2	3
	50歳代	27	159	18	4	1	7
	60歳代	77	182	18	5	2	7
	70歳以上	72	132	29	1	3	15
	無回答	0	2	0	0	0	8
世帯人数	1人	24	50	11	0	0	4
	2人	85	225	21	4	1	10
	3人	70	197	28	2	7	8
	4人	39	159	21	3	0	6
	5人	13	84	9	3	0	2
	6人以上	12	50	8	0	0	4
	無回答	0	3	0	0	1	9
住居形態	一戸建	201	584	75	11	7	28
	集合住宅	36	151	19	1	1	5
	店舗兼用	3	18	2	0	0	1
	その他	3	14	2	0	1	1
	無回答	0	1	0	0	0	8

資 料

～ 生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査票～

小田原市・足柄下地区における 生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査

調査ご協力のお願い

日ごろより環境行政にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町では、現在、焼却処理されている「生ごみ」と「剪定枝」について、広域ごみ処理に適したリサイクルの方策の調査検討を行うことを目的に、住民、事業者、学識経験者をメンバーとする「小田原市・足柄下地区資源化検討会」を設置しました。

ごみの分別など、ごみ処理に関する問題は、住民の皆様にも密接に関わる重要な問題であり、その解決には皆様のご理解とご協力が不可欠です。

そこで、多くの方のご意見を伺い、検討会での調査検討の参考とさせていただくことを目的として「生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査」を実施することになりました。

このアンケート調査の実施にあたり、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町に住民登録をされている20歳以上の3,000名（小田原市2,340名、箱根町200名、真鶴町100名、湯河原町360名）の方を無作為に選ばせていただきました。

このアンケート調査は無記名でお答えいただくうえ、ご回答いただいた内容は、統計的に処理します。厳格に管理し、他の目的に使用することは一切ありません。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、今後のごみ処理を検討するための大切なアンケート調査ですので、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成21年10月

小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会
小田原市 環境部 環境政策課
箱根町 環境整備部 環境課
真鶴町 環境防災課
湯河原町 環境都市部環境課

アンケート調査票は、平成21年11月6日(金)までにご投函ください

裏面の「回答について」をよくお読みになってからご回答ください。

〔 ご 回 答 に つ い て 〕

ご記入は、濃い鉛筆（HBまたはB）でお願いします。

お答えは、指定の数だけ、あてはまる番号に 印をつけてください。

「その他」とご回答の場合は、()の中を具体的に記入してください。

本アンケートはご記入後、同封した返信用封筒に「アンケート調査票」
のみを入れ、11月6日(金)までに郵便ポストに切手を貼らず
に投函してください。

なお、住所、氏名はお書きになる必要はありません。

返信先は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町で構成する小田原市・足柄
下地区ごみ処理広域化協議会事務局（小田原市環境部環境政策課内）とさせ
ていただいております。

このアンケート調査に関するご質問等は、下記までご連絡ください。

問い合わせ

小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会

【TEL】0465-33-1424

小田原市 環境部 環境政策課 【TEL】0465-33-1471

箱根町 環境整備部 環境課 【TEL】0460-85-9565

真鶴町 環境防災課 【TEL】0465-68-1131

湯河原町 環境都市部 環境課 【TEL】0465-63-2111

生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査票

【 生ごみのリサイクルについてお聞きします。】

Q 1 . 現在、ご家庭で生ごみをどのように処理、もしくはリサイクルされていますか。あてはまるものをいくつでもお選びください。

- 1 そのまま可燃ごみとして出す
- 2 水切り等を行ってから可燃ごみとして出す
- 3 そのまま畑や庭などに埋める
- 4 家庭用の生ごみ処理機器（電動生ごみ処理機や堆肥化容器など）を使用して、生ごみから堆肥を作り、庭や家庭菜園などで利用している
- 5 その他（ ）

Q 2 . 生ごみの処理やリサイクルに取り組むにあたって、あなたが大切だと思うことは何ですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。

- 1 環境にやさしいこと
- 2 費用がかからないこと
- 3 手間がかからないこと
- 4 その他（ ）

Q 3 . 生ごみの処理やリサイクルには色々な方法がありますが、生ごみの処理やリサイクルに効果的と思う取り組み（方法）は何ですか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 無駄なものを買わない、食べ残しをしないなどの生ごみを出さない工夫を行ったり、十分に水切りを行うなどしてから、これまでどおり可燃ごみとして焼却処理する
- 2 家庭用の生ごみ処理機器（電動生ごみ処理機や堆肥化容器など）を使用して、生ごみから堆肥を作り、庭や家庭菜園などで利用する
- 3 自治会や学区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作り、地域の家庭や農家に配布したり、花壇等で利用する
- 4 全地域で生ごみを分別し、生ごみから堆肥を作る施設（堆肥化施設）や、生ごみからメタンガスを生成して発電などをする施設（メタン発酵施設）でリサイクルする
- 5 わからない
- 6 その他（ ）

Q 4 . 家庭用の生ごみ処理機器（電動生ごみ処理機や堆肥化容器など）を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルについて大切だと思うことはなんですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。

- 1 できた堆肥が有効に利用できること
- 2 臭いなどが発生しないこと
- 3 家庭用の生ごみ処理機器の購入に対する補助制度などが拡充されること
- 4 家庭用生ごみ処理機器の使用法の説明会を行うなど、普及啓発を行うこと
- 5 その他（ ）

Q5 . 自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 地域で行う生ごみのリサイクルは、多くの地域で取り組んだほうがよい
- 2 地域で行う生ごみのリサイクルは、堆肥が有効に利用できる地域で行うほうがよい
- 3 地域で行う生ごみのリサイクルは、生ごみのリサイクルに関心ある人々が、農家などと連携するなどして堆肥の有効利用先を確保しながら、行うほうがよい
- 4 地域で行う生ごみのリサイクルは、行わないほうがよい
- 5 わからない
- 6 その他（)

Q6 . 自治会や学校区など地域で協力し、業務用（大型）の生ごみ処理機を使用して、生ごみから堆肥を作るリサイクルを行うことになった場合、あなたは当番などに協力できますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 協力する
- 2 できるだけ協力する
- 3 協力したいが、時間等の関係から難しい
- 4 協力したくない
- 5 わからない
- 6 その他（)

Q7 . 生ごみのリサイクルに取り組むにあたって、可燃ごみから生ごみを分別して収集することになった場合、生ごみの分別にはどの程度協力していただけますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 生ごみの分別には、どのような収集方法（収集回数など）でも協力できる
- 2 生ごみの分別には、収集方法（収集回数など）によっては協力できる
- 3 生ごみの分別には、協力したくない
- 4 わからない
- 5 その他（)

Q8 . 生ごみの分別を行った場合、生ごみの収集は何回必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 週1回
- 2 週2回
- 3 週3回以上
- 4 その他（)

Q9 . 生ごみの資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

----- -----

【 . 剪定枝（剪定した植木の枝や葉、草や落ち葉など）の資源化についてお聞きします。】

Q10 .あなたが剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって大切だと思うことは何ですか。あなたの考えに近いものをいくつでもお選びください。

- 1 環境にやさしいこと
- 2 費用がかからないこと
- 3 手間がかからないこと
- 4 その他 ()

Q11 .剪定枝の処理やリサイクルには色々は方法がありますが、剪定枝の処理やリサイクルについて、あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 これまでどおり可燃ごみとして焼却処理する
- 2 剪定枝チップ機()などを使用して、家庭の植木の剪定によって生じた剪定枝から堆肥や雑草防止材などを作り、庭や家庭菜園などで利用する
- 3 公園や街路樹などの植木の剪定や伐採、草刈によって生じる剪定枝から、堆肥やチップを作り、土壌改良剤、マルチング材として、公園内で利用したり、イベントなどで配布したりする
- 4 剪定枝を全地域で分別し、剪定枝から堆肥やチップを作る施設でリサイクルする
- 5 わからない
- 6 その他 ()

剪定枝チップ機とは...
剪定した枝を細かく砕いてチップ化する機械です。
チップ化されたものは、畑などにませて堆肥として使えるほか、マルチング材、雑草防止剤などとして使用することができます。(写真：剪定枝チップ機)



Q12 .剪定枝のリサイクルに取り組むにあたって、可燃ごみから剪定枝を分別して収集することになった場合、剪定枝の分別にはどの程度協力していただけますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 剪定枝の分別には、どのような収集方法（収集回数など）でも協力できる
- 2 剪定枝の分別には、収集方法（収集回数など）によっては協力できる
- 3 剪定枝の分別には、協力したくない
- 4 わからない
- 5 その他 ()

Q13 .剪定枝の分別を行った場合、剪定枝の収集は何回必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

- 1 申し込み制（電話等での予約制）
- 2 週1回
- 3 週2回以上
- 4 その他 ()

Q14. 剪定枝の資源化についてのご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

【 . ごみ処理広域化についてお聞きします】

Q15. 同封しました「ごみ処理広域化の考え方」(リーフレット)をご覧になって、ごみ処理広域化について、どのようにお考えですか。あなたの考えに近いものを1つだけお選びください。

1 よく理解できる	2 ある程度理解できる	3 あまり理解できない
4 まったく理解できない	5 その他()	

Q16. ごみ処理広域化について、ご意見等がありましたらご自由にお書きください

【 . ご自身についてお聞きします】

ご記入いただいた回答を集計する際に必要となる情報です。個人が特定されたり、ご迷惑をおかけすることは決してございません。

Q17. あなたの年代にあてはまるものをお選びください。

1 20 歳代	2 30 歳代	3 40 歳代
4 50 歳代	5 60 歳代	6 70 歳以上

Q18. あなたの性別にあてはまるものをお選びください。

1 男	2 女
-----	-----

Q19. 世帯の人数にあてはまるものをお選びください。

1 1人	2 2人	3 3人
4 4人	5 5人	6 6人以上

Q20. あなたの職業にあてはまるものをお選びください。

1 会社員	2 自営業	3 公務員
4 学生	5 主婦	6 その他

Q21. あなたのお住まいの形態にあてはまるものをお選びください。

1 一戸建	2 集合住宅(マンション、アパート等)
3 店舗兼用住宅	4 その他

Q22. あなたの居住年数にあてはまるものをお選びください。

1 1年未満	2 1～5年未満	3 5年以上
--------	----------	--------

ご協力ありがとうございました。11月6日(金)までにご投函ください。

ごみ処理広域化の考え方

～小田原市・足柄下地区のごみ処理について一緒に考えてみませんか？～



小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町は、ごみ焼却施設の老朽化や最終処分場の確保難、リサイクルの必要性の高まりやダイオキシン類対策等の環境保全対策の必要性などの共通した課題に対応するため、平成18年度に「小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会」を設立し、ごみの広域的な処理（ごみ処理広域化）について検討してきました。

今回、これまでの検討報告として、ごみ処理広域化を進めていくうえでの考え方や取り組みなどを示した「ごみ処理広域化の考え方」がまとまりましたので、お知らせします。

今後は、皆様のご意見を伺いながら「ごみ処理広域化実施計画」の策定を行い、平成32年度を目標として、新しいごみ処理施設の稼働開始や各市町の「ごみの分け方や出し方」の統一を目指していきます。

平成21年6月

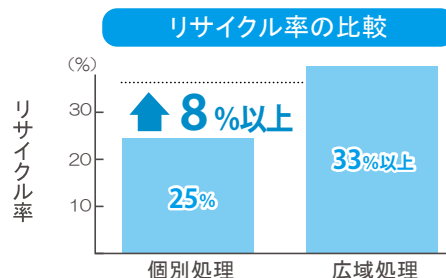
小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会
小田原市 箱根町 真鶴町 湯河原町

1. ごみ処理広域化のメリットって何だろう？

ごみ処理を広域化することによって、次のようなメリットが期待できます。

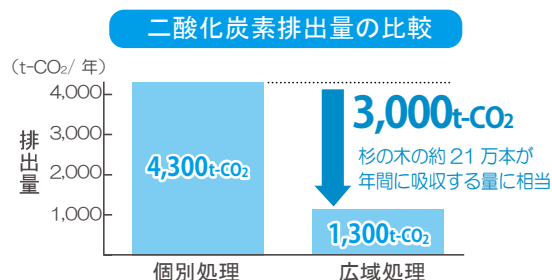
メリット1 ごみの減量化・資源化が推進できます

各市町が共同でごみ処理をすることに伴って、ごみの分別方法の統一などを行うことで、焼却されるごみが減少するとともに、より高度な処理が可能となることから、リサイクルを推進することができます。



メリット2 地球温暖化防止に貢献できます

熱回収施設（ごみ焼却施設）を一定規模以上にすることにより、焼却によって発生する熱を利用した発電等が効率的に行えるようになり、化石燃料等の消費を少なくすることができるため、CO₂の排出を抑制することができます。



メリット3 ダイオキシン類の発生を抑制できます

熱回収施設を集約化し、全連続炉（24 時間稼働）にすることにより、安定的な燃焼状態を維持できることに加え、ごみ処理技術を高度化できるため、ダイオキシン類の発生を抑制することができます。

ダイオキシン類の排ガス基準

(単位: ng-TEQ/m³N)

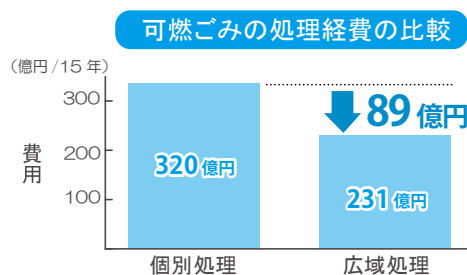
施設規模	新設施設基準	既設施設基準
4t/h 以上	0.1	1
2t/h-4t/h	1	5
2t/h 未満	5	10

ダイオキシン類対策特別措置法に基づく排ガス基準値

メリット4 ごみ処理経費を縮減できます

環境負荷の少ない高度な熱回収施設等を個別に整備すると多額の費用が必要となるため、施設を集約化し、広域的に処理することにより、建設費や維持管理費を削減することができます。

※ 熱回収施設の建設費と15年間の維持管理費を比較



2. どんなごみ処理施設が必要なの？

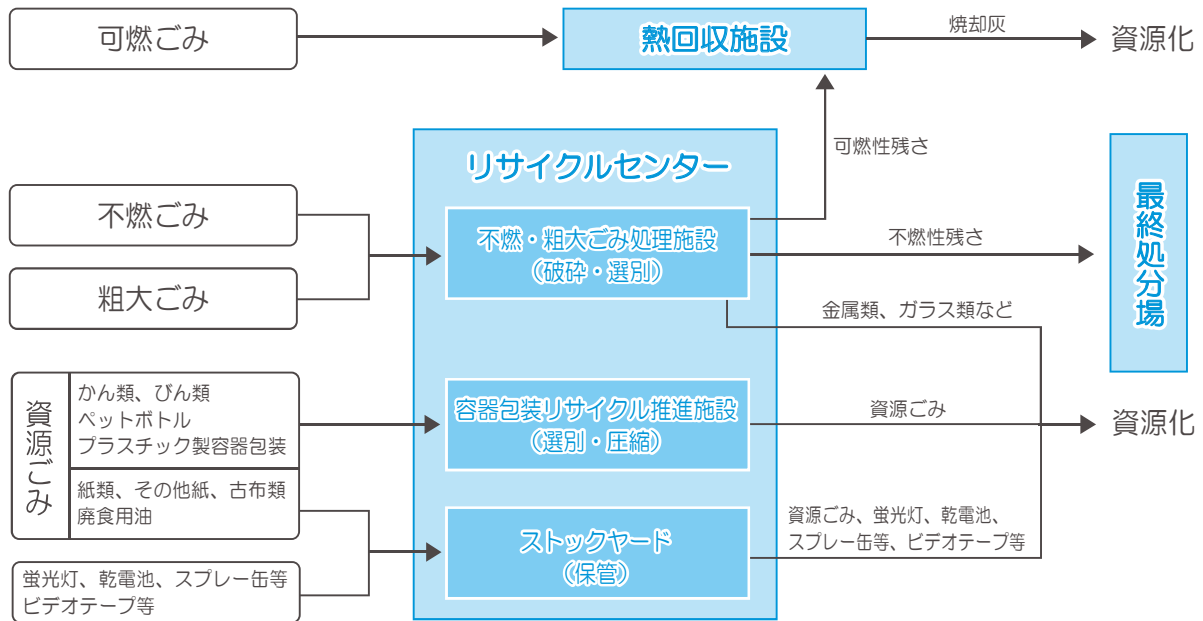
広域的なごみ処理に必要と考えているごみ処理施設の概要は次のとおりです。

施設	整備手法	施設数	施設規模	建設費（概算）	稼働目標年度	設置場所
熱回収施設	新設	1	320 t / 日	約170億円	平成32年度	小田原市
最終処分場	新設	1	53,000m ³	約30億円	平成32年度	3町のいずれか
リサイクルセンター	新設	効率性の観点から施設の集約化の可能性等を検討していく				
中継施設	運搬の効率性や環境負荷の軽減の観点から整備の必要性等を検討していく					

※ ごみ処理の広域化で整備する施設に対しては、循環型社会形成推進交付金制度を活用することができます。
施設規模と建設費については、ごみ量推計などのデータ更新等により見直しを行います。
生ごみと剪定枝の資源化の方法によっては、堆肥化施設などを整備することがあります。

3. どうやってごみが処理されるの？

ごみ処理広域化では次のようにごみが処理されます。



※ 必要に応じて中継施設（ごみ積み替え施設）を整備します。
生ごみと剪定枝の資源化の方法によっては、堆肥化施設などを整備することがあります。

4. 各市町の「ごみの分け方や出し方（分別収集等）」はどうなってるの？

各市町の「ごみの分け方や出し方」は次のようになっています。

指定ごみ袋制度の導入状況

小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町
家庭系可燃ごみ	家庭系事業系可燃ごみ	(推奨袋制) ※	(推奨袋制)

※ びん類は指定袋制

ごみ処理手数料の状況

(1) 粗大ごみの収集、運搬、処理にかかる手数料

小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町
1,000円/個	500円/個	500円/個	500円/個

(2) ごみの持ち込みにかかる手数料

小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町
25円/kg	無料 不燃ごみ、粗大ごみ、かん類、びん類、ペットボトルは、10円/kg	無料 廃木材は、20円/kg	無料 廃木材は、20円/kg

ごみ集積場所への排出制限

小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町
300kg/月(※) (10kg/日)	100kg/日	500kg/日	500kg/日

※ 事業者が公共収集を利用する場合は40円/kgの手数料を徴収

分別収集の状況

平成21年4月現在

	小田原市	箱根町	真鶴町	湯河原町	
分別数	9分類18品目	6分類14品目	9分類12品目	9分類13品目	
可燃ごみ	2回/週	3回/週	3回/週	3回/週	
不燃ごみ	1回/月	1回/週	2回/月	1回/月	
粗大ごみ	随時	2回/月	2回/月	2回/月	
資源ごみ	かん類	1回/月	1回/週	1回/隔週	1回/隔週
	びん類	1回/月	1回/週	1回/隔週	1回/隔週
	ペットボトル	2回/月	2回/月	1回/隔週	2回/月
	プラスチック製容器包装	2~3回/月	—(※2)	—(※2)	—(※2)
	紙類(※1)	2回/月	2回/月	2回/月	1~2回/月
	その他紙	2回/月	—(※2)	—(※2)	—(※2)
	古布類	2回/月	2回/月	—(※2)	—(※2)
その他	廃食用油	1回/月	1回/月	—(※2)	—(※2)
	蛍光灯	1回/月	1回/週	2回/月	1回/月
	乾電池	1回/月	1回/週	2回/月	1回/月
	スプレー缶等	1回/月	—(※3)	—(※4)	1回/隔週
	ビデオテープ等	1回/月	—(※2)	—(※2)	—(※2)

※1 紙類とは新聞紙、雑紙(雑誌、書籍、化粧箱など)、ダンボール、紙パック

※2 可燃ごみとして分別収集を実施

※3 不燃ごみとして分別収集を実施

※4 かん類として分別収集を実施

5. ごみ処理の広域化に向けて何をするの？

ごみ処理の広域化に向け、次のような取り組みを行います。

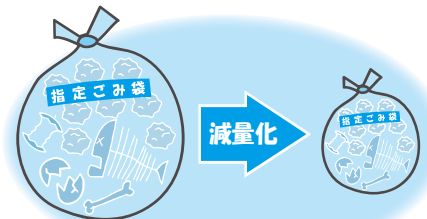
取組1 各市町の「ごみの分け方や出し方」の統一を目指します

ごみ処理広域化においては、構成市町が共同でごみを処理するため、処理の効率性や公平性等の観点から「ごみの分け方や出し方」を統一する必要があります。

「ごみの分け方や出し方」の統一にあたっては、ごみ焼却量や最終処分量の最小限化など、ごみ処理による環境への影響を少なくすることを第一に考え、ごみ処理施設の整備と合わせて検討していきます。

取組2 これまで以上のごみの減量化を目指します

ごみ処理による環境負荷のより一層の低減とごみ処理費用の縮減を目指し、ごみの発生、排出を抑えるための方策を、住民や事業者など、幅広く意見を聴きながら検討していきます。



環境負荷の軽減、ごみ処理費用の縮減

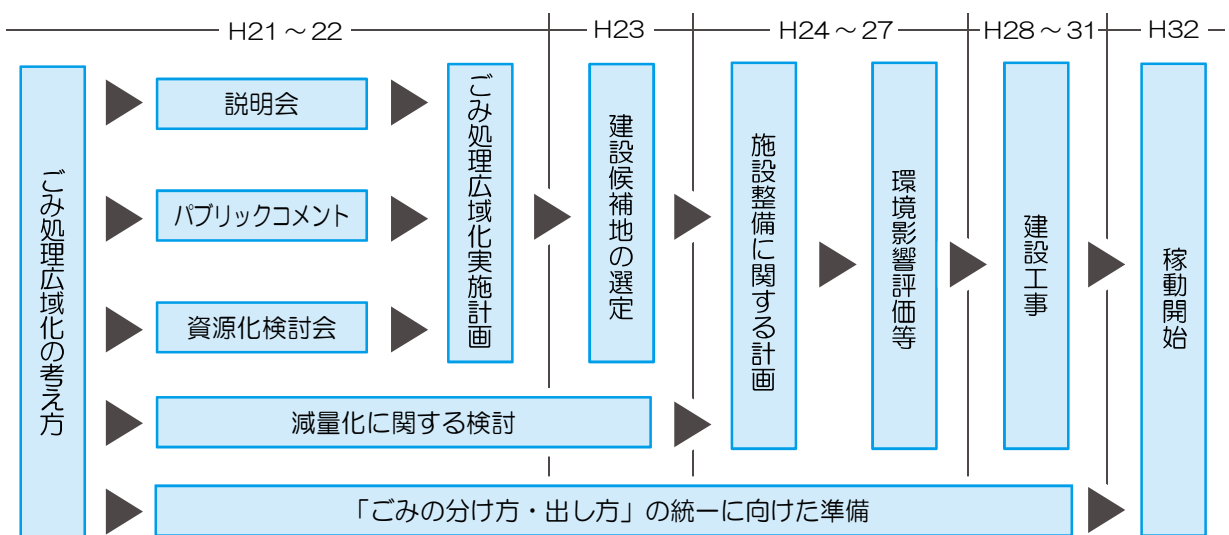
取組3 生ごみと剪定枝の資源化について検討します

住民、事業者、学識経験者などで構成される『資源化検討会』を設置し、持続可能な生ごみと剪定枝の資源化の方法について検討を行い、ごみ焼却量や最終処分量の最小限化を目指します。



6. 稼動開始までの予定はどうなってるの？

稼動目標である平成32年度までのフローは次のとおりとなっています。



●問い合わせ

小田原市：環境部環境政策課 【TEL】 0465-33-1471 【E-mail】 kansei@city.odawara.kanagawa.jp
箱根町：環境整備部環境課 【TEL】 0460-85-9565 【E-mail】 kankyou@town.hakone.kanagawa.jp
真鶴町：環境防災課 【TEL】 0465-68-1131 【E-mail】 kankyo@town-manazuru.jp
湯河原町：環境都市部環境課 【TEL】 0465-63-2111 【E-mail】 kankyo@town.yugawara.kanagawa.jp
小田原市・足柄下地区
ごみ処理広域化協議会 【TEL】 0465-33-1424 【E-mail】 kouikigomi@city.odawara.kanagawa.jp

生ごみ、剪定枝のリサイクルに関するアンケート調査 報告書
(平成 22 年 3 月)

事務担当 小田原市・足柄下地区ごみ処理広域化協議会
(小田原市環境部環境政策課内)

〒250-8555

小田原市荻窪 300 番地

電話 0465-33-1424

メール kouikigomi@city.odawara.kanagawa.jp